

2. 大津市龍家文書調査

渡部 凌空

1. 概要

龍家文書は、膳所藩南庄村（現大津市伊香立南庄町）で代官や庄屋を勤めた龍家に伝来した文書群で、現在は大津市歴史博物館に寄託されている。同文書群は、その一部が2019年に市の指定文化財に登録されており、その後全体調査が行われ、2022年11月に同館の高橋大樹氏から委託依頼があり、2023年6月に史料の一部を文化情報学研究室へ搬入した。

調査参加者 東昇（教員）、竹中友里代（特任講師）、長谷川巴南（博士前期課程2回生）、渡邊幸奈（4回生）、小原万侑、小島慧音、島村朱音、渡部凌空（以上3回生）、上武恒介（1回生）、フィールド実習参加者、古文書に触れる会参加者（以上1・2回生）

2. 内容

龍家文書は、既に同館にて調査された分を箱1とし、文化情報学研究室ではその追加分の箱2、箱3の調査を行った。箱2（黒漆塗箱）はさらに2箱（杉箱）に分かれており、文書数は合計96点で、主に18世紀中頃から19世紀中頃にかけての触書、争論関係史料、土地売買証文等がある。これらの文書からは当該期の藩政・村政の様子や経済的有力者としての龍家の姿について明らかにすることができる。箱3は木箱、中性紙箱に入れ搬入しており、箱分類と伝来状況に関連性はない。現在までに主に18世紀後半から19世紀後半にかけての文書909点を確認しており、家政や村政に関するもの等内容は多岐にわたる。龍家についての史料には「龍家図并明細帳」があり、文化元年（1804）に同家市右衛門・市郎兵衛が龍骨を発掘した由緒が記される。当地域に特徴的な史料としては、大津宿の助郷関係史料があり、大名通行等に際して集められた人足・賃金等を記した帳簿や助郷免除要求の文書等、南庄村と大津助郷の関わりを詳細に知ることができる。また当地域は「水荒」、「山落」といった自然災害が頻発する地域であったため、普請のための竹木を願う「井川竹木御願帳」等が多数伝来しており、自然災害の被害の実態やそれに対処する藩や村の様子を明らかにすることができ、環境史の視点からも重要な史料と言える。



写真1 龍家文書搬入の様子

龍家文書は、既に同館にて調査された分を箱1とし、文化情報学研究室ではその追加分の箱2、箱3の調査を行った。箱2（黒漆塗箱）はさらに2箱（杉箱）に分かれており、文書数は合計96点で、主に18世紀中頃から19世紀中頃にかけての触書、争論関係史料、土地売買証文等がある。これらの文書からは当該期の藩政・村政の様子や経済的有力者としての龍家の姿について明らかにすることができる。箱3は木箱、中性紙箱に入れ搬入しており、箱分類と伝来状況に関連性はない。現在までに主に18世紀後半から19世紀後半にかけての文書909点を確認しており、家政や村政に関するもの等内容は多岐にわたる。龍家についての史料には「龍家図并明細帳」があり、文化元年（1804）に同家市右衛門・市郎兵衛が龍骨を発掘した由緒が記される。当地域に特徴的な史料としては、大津宿の助郷関係史料があり、大名通行等に際して集められた人足・賃金等を記した帳簿や助郷免除要求の文書等、南庄村と大津助郷の関わりを詳細に知ることができる。また当地域は「水荒」、「山落」といった自然災害が頻発する地域であったため、普請のための竹木を願う「井川竹木御願帳」等が多数伝来しており、自然災害の被害の実態やそれに対処する藩や村の様子を明らかにすることができ、環境史の視点からも重要な史料と言える。

現在は箱の現状記録、番号付与、一部の史料撮影、翻刻が完了しており、今後は引き続き目録の作成を行う予定である。